

一気に春めいてきました。いよいよ春野菜の播種時期となってきました。

当 JA 管内では 3 月に入るとマルセイユメロンやブロッコリーの種まきと、ミディトマトの定植が本格的に始まります。今回はこれらの作業について記してみます。マルセイユメロンとブロッコリーの発芽温度と定植までの温度管理は、講習会の資料にあるとおり、以下のような基準となっています。

マルセイユメロン温度管理の目安

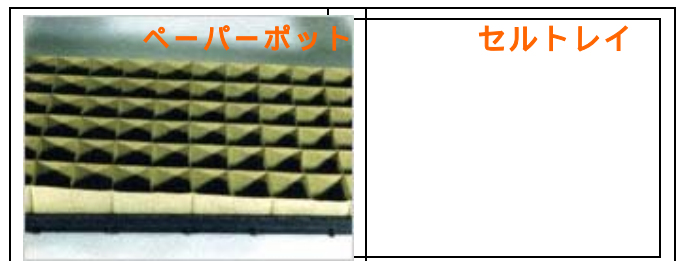
ハウス内温度	播種～発芽	発芽～鉢上げ (子葉完全展開)	鉢上げ～定植 3 日前迄	定植前 3 日間
日中気温	28～30	28～30	26～28	22～26
日中地温	28～30	25	23	21
夜間気温	28～30	22～24	20～22	16～18
夜間地温	28～30	25	22	16
備考	濡れ新聞紙・コモ等で遮光し乾かないようにする。	育苗期間は、鉢が乾き過ぎないように少量ずつかん水し根の発育を促す。		寒さに馴らし定植後の活着を促す。

マルセイユメロンの播種・・・播種箱 (30 cm x 60 cm) に約 100 粒条蒔きとします。双葉が展開したら 9 cm または 10.5 cm 鉢に鉢上げします。温度管理は上の表を参考としてください。なお、播種床の土は良質堆肥と無病土を半々にします。特に肥料は混用しません。鉢上げ用の土は土 20L に対し、過石、そさい 3 号、石灰資材を各 20～30g 程度混合して使用する。

ブロッコリー温度管理の目安

ハウス内温度	播種～発芽	子葉完全展開時	子葉完全展開～ 定植前 1 週間	定植前 1 週間～定植
日中気温	25～30	20～25	18～20	加温をせずに徐々に外気温に近づける。
日中地温	20～25	15～20	13～15	
夜間気温	25～30	10～15	10～15	
夜間地温	(25 に設定)	(20 に設定)	(15 に設定)	
備考	濡れ新聞紙をかけて乾かないようにする。	育苗期間は土が乾き過ぎないように少量ずつかん水し、根の発育を促す。		寒さに馴らし定植後の活着を促す。

ブロッコリーの播種・・・1 2 8 穴のセルトレイまたは 7 2 穴のペーパーポットに 1 粒づつ播種するのが一般的です。播種から定植までの温度管理は上記の表を参考としてください。ブロッコリーの場合はそのまま定植まで持ってゆきますので、用土はマルセイユメロンの鉢上げ用の土に準じて調整します。無肥料の培土を使用する場合は育苗中に薄い液肥で生育を調整します。



ミディトマト温度管理の目安

ミディトマトの苗はすべて購入となります。苗は温度馴化されていますので、到着したら速やかに定植することとなります。(定植まで間がある場合は苗の置き場の温度が 35 を超えないよう、また、最低温度が 10 を下回らないよう注意して管理してください。指定の温度から大きく外れると生育が停滞したり、初期の果実が変形したりして、可販収量の大幅な低下が起こります。)

定植時には植床の地温が 15 以上になっていることを確かめてから作業をしてください。定植後 4 月中旬頃まではトンネルの開け閉めで調整しながら、ハウス内トンネルの温度を日中 20～28、夜間 10 を確保します。4 月下旬以降、気温が上がってくるのでトンネルは除去し、

夜間10℃を確保するようにする。5月下旬頃になると外気温が最低15℃以上になってくるので、基本的にハウスの締め切りはしないようにしてください。

以上の内容の中で特に留意しなければならない共通のことは以下の各点です。

温度管理の確認、チェック・・・播種床のサーモスタットの温度センサー先端部分がしっかりと土中にセットされているか点検する。このとき、センサーの周りの土に湿り気がないと正確に作動しません。また、サーモスタットのメモリーは正確とは言えないので、必ず地中温度計で所定の温度になっているかを確認する。

ハウス内の温度管理についてもハウス毎に最高最低温度計を必ず設置して日々管理してください。

無病土や良質堆肥の入手が困難な場合や培土作りに自信がない場合は、市販の培土を購入し使用して下さい。

鉢上げ用ポットの大きさについては、9cmより10.5cm、10.5cmより12cm鉢の方が良いわけですが、用土の量も倍、倍と必要になってきます。また、重い土では鉢が大きくなるほど湿害を誘発する危険性もあります。自家育苗の場合は10.5cm鉢がお勧めです。

プロコッリーの播種に使うセルトレイも流通上は128穴が多く使われていますが、自家育苗の場合は72穴のペーパーポットやセルトレイの98穴や72穴のほうが苗の管理もし易く、定植適期中も広く、老化苗になる危険性も少ないのでお勧めです。管理上注意しなければならないのは、ペーパーポットと違いセルトレイはそれぞれのセルが独立しているため、水分の不均衡が出易いので、灌水ムラの出ないように丁寧に行う必要があります。

野菜の播種から鉢上げ、定植にいたる一連の作業においては温度管理が重要になります。播種、鉢上げ、定植とそれぞれのステージに移行する際は、それまでの温度環境と同等か、やや温度を高くしてやります。ステージ移行の際にそれまでの温度環境より低くなりますと、苗が一時的に生育を停止したり、障害を抱えるようになり収量、品質に影響が出ます。灌水についても、鉢土や、床温より冷たい水をやりますとやはり生育遅延を引き起こします。よく本などに汲み置きの水を使うと良いとありますが、この時期はかえって冷たくなっていることの方が多いので、水温をチェックして使用して下さい。また、育苗期間中の灌水は必ず午前中に行うようにして下さい。

園芸相談 Q&A

Q:畑の雑草がひどいので、作付け前に除草剤を撒きたいが？

A:作付け前の除草剤としてはラウンドアップをお勧めします。農薬の登録上は野菜類の耕起前まで(雑草生育期)使用できるとなっています。ラウンドアップは土壌に落ちると直ちに不活性化し、順次土壌中で分解が進みますので土壌中に残留しないとされています。ただし、今の時期は温度が低いため、雑草が枯れるまでに3週間程度はかかるものと思われます。その後耕起することとなりますので、かなりの期間を見込む必要があります。なお、特裁認証対応作物の場合、前作終了後の薬剤散布となりますので、成分はカウントされますのでご注意ください。

Q:ジャガイモの種イモを3分割したいがその方法は？

A:ジャガイモの種芋は40~50g位に切り分けて切り口を乾燥させてから植えます。分割は通常2~4分割となります。縦切りが基本ですが、3分割の場合は先ず横に2分割します。ジャガイモの芽は芋の上半分に多いので、2分割した芋の上の部分を縦切りとし3分割にします。

Q:雪が融けたのでイチゴに有機入り肥料の追肥をしたいが？

A:イチゴは低温作物ですので根の動き出しは早いです。この時期に肥効を速やかに出すためには、硝酸態窒素を多く含んでいる「そさい3号」が有効です。ご相談の方は有機入り肥料に拘っておられ、結局有機A801を水に溶かして施用することとなりましたが、この肥料はアンモニア態窒素が主成分ですので効きが遅くなります。有機入りに拘る場合は硝酸態窒素も含まれている「有機化成S30」という製品がありますのでこちらの方がやや早く効きます。(有機の含有は、有機A801で有機35%、有機化成S30は有機30%となっています。)